



## 2019-2020年度 主題

国際会長： Jennifer Jones 「より良い明日のために今日を築く」  
 アジア太平洋地域会長： “Action!”  
 田中 博之（東京多摩みなみ）  
 東日本区理事： 山田 敏明（十勝） 「勇気ある変革、愛ある行動！」  
 湘南・沖縄部長： 森田 幸二郎（沖縄） 「ワイズを社会に広める再構築をする」  
 クラブ会長： 今城 高之 「奉仕する、みんなちがって みんないい」  
 ～まずは隣人から～



## 今月の聖句

「主に贖(あがな)われた人々はそのように唱えよ。主は、彼らを苦しめる者の手から贖い、国々の中から集めてくださった。東から西から、北から南から」

(詩編107：2～3)

世界はコロナパンデミックに覆われ、世界経済の営みや個々の日常生活の隅々に至るまで未曾有の危機に苛まれております。なによりもこのような時代においてこそ争いや対立、憎しみや差別を克服し、お互いに協力し連帯する平和な世界をつくり出すことができますように。神様の絶えざる憐れみとお導きをお祈り申し上げます。

相賀 昇

## 《巻頭メッセージ》

## コロナ雑感

## 鈴木 恭子

新型コロナ肺炎の感染に伴う緊急事態宣言は、さる5月25日やっと解除されましたが、東京都や神奈川県ではまだ新たな感染者が出ていますので、油断のできない日々が続いています。2か月間以上にわたる長い自粛生活で、今年の春は夫とウオーキングしながら桜の花を楽しみ、ご近所のお宅の庭や道端に咲く花に心をいやされる日々でした。

しかし一方では、今回のコロナ騒動の中で私は一喜一憂していました。私は3月半ばから風邪気味でしたが、毎日報道される東京の感染者数がピークになった4月8日に微熱が出ました。微熱と言いましても36.8度に過ぎないのですが、平熱が35度台の私にはショックでした。特に体調に変化はなく、普段の生活をしながらも気持ちはすっかりコロナウイルスの感染者になってしまいました。三日目には平熱に戻りましたが、家族への感染を恐れ消毒や「三密」には気を使いました。

その他、コロナの感染拡大により、家族の日常生活にもいろいろな変化が出ています。夫は毎日家に居ることが多くなり、1日3回の食事献立に頭を悩ます日々が続いています。わが家は二世帯住宅ですが、2階に住む息子夫妻は緊急事態宣言以降も、ほぼ毎日出勤していましたが、息子は4月後半からやっと週3日の在宅勤務になり、5月末まで続きました。嫁は食品関係の仕事ですので、在宅勤務は無いようです。

親しくしているお隣のお宅は、高・中・小学校のお子さんを持つ大学病院のお医者さん家族ですが、自分たちは症状が出ない感染者かもしれないからとおっしゃり、小学校のお子さんもわが家に遊

びに来なくなりました。私たちが心配しての事ですが、やはり寂しいです。

私が親しくしている「みんなの家」の方々は、障碍を持つお子さんを施設に預けていますが、感染の危険をも厭わず子供たちを守り続けてくれる施設の職員への感謝の思いを、今回のコロナ災難で一段と強くしたとおっしゃっています。

また私は自主グループ「虹の仲間」の会員ですが、これは高齢者が多い80名程度の会です。みんなで年間計画をたて講演会、バスハイク、グループ活動、会員への毎月の便り発行・送付等で顔を合わせ、おしゃべりをする機会が多くなりましたが、今は全てお休みです。会員はご高齢で一人暮らしの方もいらっしゃるため、今はみんなで連絡を取り合い、つながりを大切にしています。

わが家の洗面所にはYMCAのカレンダーが掛けてあります。写真の子どもと若いリーダーの笑顔を見ると心が和みます。3,4月の目標は「地域や世界に関心を持つ」と、5,6月は「『ありがとう』を声に出して伝えよう」とあります。この困難な時期にあった素晴らしい目標だと驚いています。

家にいる事が多い今は、テレビや新聞報道によりコロナ感染に対する各国の対応の違いや、経済への影響も少し理解できるようになりました。そしてボランティアによるつながりや優しさの大切さも学ぶことができました。新型コロナウイルスの感染を機会に、いのちと環境を大切に



2020.6.3

## 6月の本例会

日時： 6月26日（金）

14:30～17:00

場所： かけはし都筑

司会： 辻 剛、受付： 今城宏子

◇5か月ぶりの例会です。5か月間の皆さんの状況、ご所感等をご紹介ください。

◇今後のクラブ運営について、フランクな意見交換をしたいと思います。

◇7月のクラブ総会（7月24日）についての事務連絡があります。

◇終了後の会食は行いません。

## 《会長の一言》

今城 高之

昨春、ワイズ歴13年で3度目のクラブ会長をお引き受けしたときは、これが最後のお務めという思いが強かった。それなりに1年間を頑張り抜く覚悟もあってのことだった。年度が変わり、まずまずのスタートを切ったが、後々起こる数々の出来事は想像だにできなかった。

- ◆8月例会は、例年と同じ「納涼例会」で日頃関りのあるお客様を招いての持ち寄りの会食。とても楽しかった。
- ◆9月末の第9回You&Iコンサートを成功裡に終わられ、支えてくれた大勢の仲間には感謝、感謝。
- ◆恒例の秋の日帰りのバス旅行（移動例会）は台風21号の直撃でキャンセル。楽しみにしていたので誠に残念。
- ◆延期されていた部長公式訪問は、部長に第一子誕生で取り止め。（おめでたい話）

- ◆無事年末を迎えたが、1月末ごろから報道を賑わせ始めた新型コロナウイルス感染拡大により、世界中が「自粛」へ。我々の以降の全てのプログラムも中止となり今日に至っている。影響を受けた主なものは；部大会（@沖縄）、横浜北YMCAとの交流例会、3月事務・本例会、4月事務・本例会、5月事務例会、5月富士山例会、第23回東日本区大会（@帯広）ときりが無い。
  - ◆その他の、日常的に行っている地域奉仕活動なども中止を余儀なくされた。
  - ◆先日、クラブの役員会議をZOOMにより行い、今年度最後、6月の本礼拝は、様々な制約はあろうが、恐る恐る開催することに決定。
- かくして、ワイズにとっても、私にとっても極めて異常であった1年が終わろうとしている。みなさん、本当にありがとう！

## 《 特 別 寄 稿 》

～第2回～

—コロナ閑人、閑居して、閑話をなす—

辻 閑人

<閑話 8> 「新型コロナ—国家を超えた連帯の好機—苦境の今こそ、21世紀最大の課題である『国家を超えた連帯』を実現させるチャンスだ。確かに、英国のブラウン元首相も3月に『一時的な世界政府の樹立』を呼び掛けました。ただ、現時点では、世界は「連帯」よりも「分断」へと向かっているようにも見えます。」（朝日新聞のインタビューに答えて/社会学者・大澤真幸氏/2020年4月8日朝刊）

<閑話 9> 「この試練の期間中、私たちが如何に相互に依存している関係にあるかということ学ばされています。この危機の間、社会的なつながりを維持することは、これまで以上に重要であり、コミュニティーに所属しているという強いきもちでは、私たち全員が前向きでありつづけるのに役立ちます。」（「全世界地域会長・理事ミーティング」でのジョーンズ会長挨拶/2020年4月8日）

<閑話 10> 「これだけの危機を迎えて、私たちは何をどう考え、どう生きるかが問われているのだと思います。ベルリンにあるシャリティー病院の精神科医のマツダ・アードリという人は、『現在の状況では希望の原理に立つことが特に重要です。危機というストレスに対処するために必要なのは、今の状況は一時的なものだという絶対的な確信に立って心の重荷の軽減を図ることです。』と述べています。」（田園都筑教会・相賀昇牧師/イースター共同礼拝説教/2020年4月12日）

<閑話 11> 「新型コロナ—ここが政治の分かれ道—まず国際的な連帯で危機を乗り越えるという選択肢が

あります。他方で、国家的な孤立主義の道を選ぶこともできる。この危機のさなか、憎しみより連帯を示すのです。」（ハシル氏に対する朝日新聞のインタビュー記事/2020年4月15日朝刊）

<閑話 12> 「米、WHO拠出金を停止—トランプ米大統領は14日、新型コロナウイルスをめぐる世界保健機構（WHO）の対応に問題があるとして、検証を終えるまでの間、拠出金の支払いを停止すると明らかにした。（1面）/ワクチン開発にも影響—国際社会が団結し、ウイルスを抑え込むために連帯して協働するときだ。/グレーテス国連事務総長（3面）」（朝日新聞朝刊/2020年4月16日）

&lt;閑話 13&gt;

「はじまりは、たった一個の変異菌」

「そのクシャミ、花粉かコロナかインフルか」

「想像す、『濃厚接触』いろいろと」

「今日何度？ 気温でなくて体温ね」

「ケンカする気力・体力なく平和」

「毎日が不用不急のことばかり」（会社の同期会の幹事がメールで送ってくれた川柳をパクりました。/2020年4月17日）

<閑話 14> 現在、閑読中の書籍（2020年4月18日現在）：

「沈黙の戦艦/1～10巻（全16巻）」（かわぐちかいじ）

「風の大地/1,8,11,13,15,20巻（全76巻）」（坂田信弘作/かざま鋭二画）

「MONSTER/全18巻」（浦沢直樹）

「ナニワ金融道/全19巻」（青木雄二）

「釣りバカ日誌/全104巻」（やまさき十三作/北見けんいち画）  
（完）



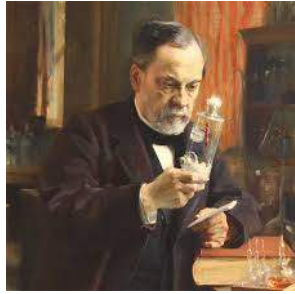
## 《特別寄稿》 久々のワイン鑑賞

横田孝久

コロナ騒ぎで自粛が始まって早3か月が過ぎます。自宅飲みが増えたせいか少々？お腹が出てきた小生は、今月で喜寿を迎えます。

そんな中、昔に読んだ本の中にでてきたルイ・パストゥールという科学者の話を思い出したのでした。

彼は1822年にフランス東部の古い町ドールで生まれました。そして4歳の時、スイスとの国境に近いジュラ地方の町アルポアに移りますが、ここはジュラの薫酒（わら酒）



「VIN DE PAILLE」ヴァン・ド・ポールと呼ばれる特殊なワインの産地で、彼がワインの研究に入る動機となったと言われています。小生はこのワインは2度ほど飲んだ記憶がありますが、黄色、それこそ薫の色をした白ワインです。

彼の人生とか多種多様な研究についてはここでは省きますが、彼の多くの研究成果はご存知のとおりです。フランスのパストゥール研究所やドイツ国境近くのストラスブール第1大学は彼の名前を記念して「ルイ・パストゥール大学」とも呼ばれています。その後パリの北部へ移りリールにある理科大学でワインとは関係のない研究や講義をしていたのですが、ある時、醸造業者からアルコールの発酵が不順であると相談され、彼の研究心に火が付きまします。

発酵は微生物である酵母によって引き起こされること、発酵が不順なものは酵母の活動が衰えて乳酸菌が増殖してくるなどを発見しました。人類は古くから、知らず知らずのうちに微生物の恩恵を受けてきました。ワインをはじめとした酒造りやパン、チーズ、食酢、ヨーグルトなど、わが国では味噌・醤油・漬物など多くのものは微生物の働きなしには出来ないものです。また、人類が大地を耕す際には、動植物の排泄物や遺体を分解して自然に帰すなどして、我々の生活を支えているのも微生物です。パストゥールはそれらを発酵研究で明らかにし、その実験方法は現在でも教科書の基本とされています。

この微生物が土からであれ動物からであれ、小生は知識がないのでよく説明ができませんが、微生物は細胞があるのやらないのやいろいろあるのかも？

コロナウイルスは細胞がありませんが、たんぱく質の分解で結合して増殖します。感染の経路はいろいろ言われていますが、動物なのか土からの物なのかいずれ判明するでしょう。

小生の言いたいことは、彼は腐敗や発酵のきついワインを顕微鏡をのぞきながら病気を発見してワインのテスティングをして専門業者を驚かせたそうです。それから、試行錯誤しながら発酵と熟成を繰り返して現在に至っていると言っても過言ではないと思うところです。ここでワインのビンテージやブドウの品種によって好みのワインが選ばれることになります。

蛇足ですが、彼は低温殺菌法を考え、特にビール製造の発展に寄与したことも付け加えておきます。

ワインビネガーを造るには十分な酸素を与えて酢酸菌を増やさなければなりません、ワインは全く反対で、酢酸菌が増えては困るので、貯蔵が難しいのですが、できるだけ空気と接触させないようにするのですが、それではワインは熟成しません。微妙な空気との触れ合いが必要になるのですが、そこで樽やコルクの栓など多少は空気と触れるチャンスを与えてそれこそ何十年もして飲み頃になったり、若いワインもデカンタして空気に早く触れさせて味を作るなんて事をするのです。

パストゥールの晩年は鶏コレラや羊や牛の炭疽病の予防に成功し最後には狂犬病の予防ワクチンを完成させるのであります。

自粛生活での小生のワイン摂取は、普段飲みはケチ癖が出て、熟成の少ない若いワインをそのままグラスにとかデカンタとか、抜栓して二日目に飲むとかで楽しんでます。同じボトルでも味が全く変わってくるのは本当に驚きです。

ルイ・パストゥールの言葉ですが、「すべての本の中よりも、一本のワインの中により多くの叡知が含まれている」と言ったそうです。神の名によってカンパイ！コロナ騒ぎが一日も早く収まりますようにアーメン。

2020年6月1日



## (5月のデータ)

例会出席	一名	在籍会員数	18名	各種記録	前月	年度累計
メンバー	一名	月間出席者数	一名	使用済み切手	0	0
ビジター	一名	メーカー	一名	スマイル	0	25,000円
ゲスト	一名	月間出席率	— %			



## 《トピックス》

先ごろ、日本Y M C A同盟や東京Y W C Aなど青少年教育に関わる5団体は、新型コロナウイルスの影響により、青少年の健全な成長のための機会が失われているとし、共同声明を発表した。自然の中で過ごす体験や学びの重要性を強調したほか、感染症の不安から生じる差別や偏見などへの「感染」にも強い危機感を表し、社会の分断を防ぐ活動が必要との考えを示した。

5団体はまず、感染予防対策を徹底して行い、新しい生活様式に沿ったプログラムを構築した上で、「自然体験活動」と「人材育成活動」の2つの青少年活動を再開するとし、その意義を説明した。

自然体験活動については、「五感で感じる生の体験は決してオンラインでは得られません」と指摘。活動で育まれる友情や協調性、相互理解などは、「子どもたちの健全な成長には必要不可欠であり普遍的」と強調した。人材育成活動については、青少年期が人格形成の重要な時期であることに触れ、「次代を担う青少年の健全な育成は、社会全体の責任」とし、家庭や学校以外における青少年教育団体として活動を再開するとした。

声明では次に、感染症の不安から引き起こされる「嫌悪・差別・偏見」が人々の心や家庭、社会に「感染」し、分断を引き起こすことに警鐘を鳴らした。こうした「病気以外の

感染」を抑止するためのプログラムを、再開するすべての活動に取り入れていくという。

最後に、青少年活動の再開は「人間性の回復への取り組みであり、社会全体の使命」と強調。「行政、企業、地域の各団体に協力、支援を呼び掛け、次代を担うリーダーの育成に継続して取り組みます」とした。

共同声明を発表したのは、いずれも世界的なネットワークを持つ日本Y M C A同盟、東京Y W C A、ガールスカウト日本連盟、ボーイスカウト日本連盟、日本キャンプ協会の5団体。5団体は2011年から、キャンプ活動を通じた青少年育成を考える事業「出会いと体験の森へ」を共同で取り組んでおり、シンポジウムの開催やリーダーの交流などを行っている。



《トピックス》 岡山大学はNPO法人などと共同で、児童・生徒、さらに中高・大学生や社会人とともに新型コロナウイルスへの理解を深め、感染予防を進めることを目的とした教材「新型コロナウイルスについて、いっしょに考えよう！」の企画・開発を行いました。新型コロナウイルスの感染者数などの状況は地域で大きく異なりますが、学校や校外学習、さらに日常のさまざまな場面で新型コロナウイルスへの理解を深めることが、感染予防には不可欠です。また、学校再開に際しては、感染予防を着実に進めるとともに、新型コロナウイルスの感染拡大という現実課題を通じて生徒が学んでいく視点も重要です。

本教材は、私たちが疑問に思いがちなことを科学的な観点から平易に説明し、小学生でも「窓を開ける」「友だちと離れる」などに納得して行動できるように工夫しています。

また、ウイルスへの興味をきっかけに科学的な関心が深まるようにQ&Aを用意しています。

今後、全国の自治体や学校などに本教材の配布や活用を呼びかけており、用途によって異なる形態で同大学HPからアクセスすることが出来ます。

今回開発した教材はこちらからダウンロードいただけます。

(コントロール/左クリック)

[\(B5×4シート、4月12日更新\)](#)

[\(B4見開き:小冊子印刷用、4月12日更新\)](#)

(紙芝居)

[<新型コロナウイルスについて、もっと知りたい人のためのQ&A> \(児童版\)](#)

[<新型コロナウイルスについて、もっと知りたい人のためのQ&A> \(大人版\)](#)





【お便り】

当クラブと日頃から交流のある仲間から近況が寄せられたのでご紹介します。

◆グループホーム“すぽーん”

メールありがとうございます。  
あれから、すぽーんのみんなはグループホームで毎日生活しています。実家にもほとんど帰ることなく、自粛期間をどう 楽しく過ごすか模索しております。すぽーんの皆さんからよく、「今週は 今城さんくる?」「今日って辻さん来ないの?」の質問されます。。。みんな、今城さんや辻さんのご飯を食べたがってます!!!「今は我慢」そう言いながらみんな来て頂ける日を心待ちしております。

まだもう少し、自粛期間は続きそうですが、みなさんお身体大切にお過ごしください。  
ご連絡ありがとうございます!とても嬉しかったです。  
皆さんによろしくお伝え下さい。  
すぽーん責任者  
雨谷 保菜美

◆宮城県山元町「みやま荘」

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ 辻 剛 様  
こんにちは。メールありがとうございます。『新型コロナウイルス』本当に大変ですよね。宮城県は先月28日に山元町で1名の感染が確認され、それからは感染者は出てません。

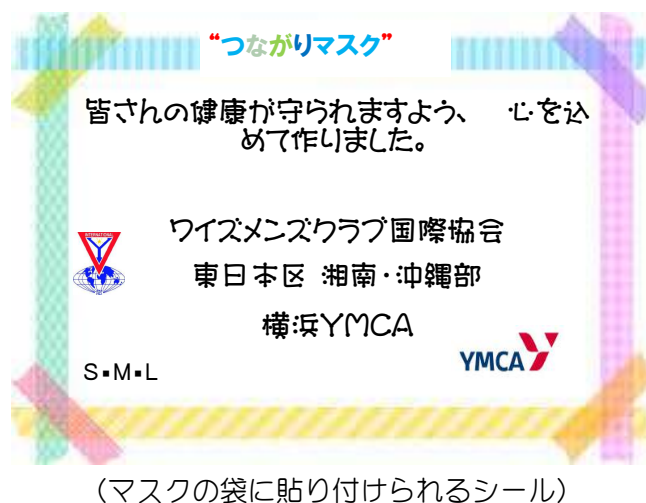
山元町で確認されたときは、法人でも緊急感染対策委員会を開き対応にあたり、解除された今でも対応は一緒です。利用者の皆様は家族と面会ができない状況が続いており、今はLINEを使ったビデオ通話で対応をしております。一日でも早く平穏な日々が戻ることを祈って、みんなで力を合わせて頑張りたいと思います。辻様をはじめクラブの皆様のお身体には十分気を付けていただき、頑張ってください。  
PS:辻さん、80歳おどろきです!全然見えません!若いですよ(▽▽) またお会いできる日をみやま荘職員、利用者一同楽しみにしています。  
みやま荘 齋

【トピックス】

「つながりマスク」

ブリテン5月号にご紹介していただいた「つながりマスク」プロジェクトのその後についての報告です。このプロジェクトは部のエクステンション委員会の有志が中心になって、集まらない、動けない中で、マスク作りでワイズ仲間は離れていてもつながろう、絆、連携を強めようとの思いでスタートさせました。5月22日には「つながりマスク」参加の有志によるZOOM会議を開催し、マスクの保管場所、手持ち在庫数、寄贈先、衛生面の管理、サイズ・型紙、更なる働き手の確保、等々について相談をしました。お陰様で有志8名プラス作成者でもあるメネットを含め総勢14名の皆様のご尽力により約200枚が完成。佐竹博総主事、奥園一紀主事以下横浜YMCAの皆様のご理解・ご協力を得て、既に5月28日には、各自の完成品を湘南とつかYMCA宛に

送付し、6月16日に事務局メンバーが集まって、YMCAとつか学童クラブの皆さん等を中心に贈呈・発送作業を行う予定です。(事務局 辻 剛)



北Y便利

横浜北YMCA 館長 鴨下 純久



緊急事態宣言が解除され、新しい生活様式を取り入れた中で、横浜北YMCAのプログラムも6月1日より始動しました。横浜市の小学校では3密を防ぐために分散登校が導入されていますが、横浜北YMCAのスイミングスクールも人数が多いクラスは、クラスを2グループに分けて隔週で練習をする分散運営としてスタートしています。参加される方全員がマスクを着用して来館し、入口で検温と手指消毒をし、間隔を開けて並ぶことをお願いをしています。更衣室での着替え方、準備体操、練習方法や観覧の仕方など、運営に関わるすべてを見直しなが、安全を最優先して取り組んでいます。横浜YMCAの新型コロナウイルス対策の動画を作成し、参加される皆さまに見ていただいておりますが、皆さまもお時間がある時にQRコードからご覧ください。



特別休会制度を導入しています。特に幼児及び成人クラスの65歳以上の方の利用が多く、約2割の方がこの制度を活用されています。

今年はコロナ禍のため、公立学校での水泳授業は実施せず、神奈川県や横浜市が運営する公立プールも運営しないとの報道がありました。また、海水浴場も開設しないとのこと。年々、暑さが厳しくなる中、水を介する事故が増えないか本当に心配です。このような状況だからこそ、YMCAのプールで安心して健康づくりや技術向上へ取り組める環境を整えていきたいと思ひます。

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。

(ローマの信徒への手紙 5章3~4節)

万全の対策を講じて、不安を感じる方には、6~7月は



# 2019~2020年度 横浜つづきクラブ Photo Album

年度後半のコロナ禍により、何にもないまま通り過ぎたような一年でしたが、アルバムを繰ってみると、色々な出来事があったことに気付かされます。さて、新しい年度はどうなりますか・・・



(新年度キックオフ例会 2019.7)



(クラブ納涼例会とYou & I コンサートキックオフ 2019.8)



(第9回You & I コンサート @都筑公会堂 2019.9)



(2019年横浜YMCAチャリラン)



(すぷーん クリスマスパティー)

～あなたとわたし、隣がいて、者とともに～

## 第9回You & I コンサート

- ◆誰もが楽しめる、リアフリーのクラシックコンサートです。何方でも、お楽しみ、お連れでご利用ください！
- ◆嬉しい専用席も用意しています。

日時 2019年9月28日(土)  
13:00開場 14:00開演

場所 都筑公会堂  
横浜市豊地下鉄センター南駅徒歩5分

出演 横浜交響楽団(指揮:佐藤和郎 伴奏)

曲目

- Ⅰ. モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 楽譜番号 K525
- アンサンブル 聖者の歌(聖書の聖句)の聖歌集より 志保(歌)と和声(伴奏)
- Ⅱ. メンデルソーン ハート・オブ・ゴットホルスト(聖ルカ福音書)より 橋本大祐(声楽) 藤田(指揮)
- ヴォカリーズ(ソング)

ご予約・お問い合わせ

ご予約先: 0667-1555(会費科)  
1555(受付科) 0667-1555(事務局)  
1555(事務局) 0667-1555(事務局)

〒224-0001 横浜市中区本町1-1-1  
横浜YMCA You & I コンサート部  
TEL 045-432-1555

※会費は別途お支払いください

※このコンサートは、新型コロナウイルス感染症の予防対策として実施されます。



(つづきクラブクリスマス祝会 お友達をお招きして@夢Café)



(新春恒例箱根駅伝観戦懇親会 @久保邸)